

ID No.	2009
研究課題名	Toll 様受容体依存性転移前ニッチ形成における免疫応答の作用機序の解明
研究代表者	出口 敦子 （東京女子医科大学・助教）
研究組織 受入教員 研究分担者	三宅 健介 （東京大学医科学研究所・教授） 丸 義朗 （東京女子医科大学・教授） 谷村 奈津子 （東京大学医科学研究所・特別研究員）
研究報告 TLR 内因性リガンド依存性の転移前ニッチ形成ががん転移を促進する分子機序を解明し、TLR 関連分子のがん分子標的としての可能性を検証することを目的とする。野生型マウスを用いた実験において、TLR4 内因性リガンド S100A8 投与により、骨髄から肺への骨髄由来免疫抑制細胞（MDSC）の動員が誘導されることから、TLR4 依存性に転移前ニッチ形成が促進されることが示唆された（論文準備中）。また、TLR4 結合分子としても知られている MD-1 のがん転移における機能を検証するため、マウス乳がん細胞を移植した担がんマウスの肺において、MD-1 を発現する細胞の同定を行った。今後引き続き、MD-1 遺伝子欠失マウスを用いて、MD-1 欠失によるがん進展の分子機序を明らかにする予定である。	